

大学ゆるキャラ続々

イメージアップを託す

各地の地域おこしに「役買っている」ゆるキャラが、全国の大学でも続々と生まれている。学内の一体感を高めたり、受験生の関心を引いたり。そんな効果を期待して、学問の府もオリジナルのゆるキャラにイメージアップを託し始めた。

東京六大学野球の早慶戦かつて、応援席の学生たちは、早稲田大なら横山隆一さんの往年の新聞連載「画」フクちゃん、慶応大なら「ミッキーマウス」の応援グッズを手に盛り上がり。だが、著作権の問題で

 <p>Wセタペアー 早稲田大 創立者大隈重信の「隈」と「熊」をかけた</p>	 <p>ユニコン君 慶応大 戦災で焼失した三田の大講堂の玄関バルコニーにあったユニコン像にちなむ</p>
 <p>ヤマミイ 山口大 自由さ、好奇心、柔軟性を持つネコをイメージ</p>	 <p>カッチーくん 佐賀大 佐賀県内で「カチガラス」と呼ばれる県鳥カササギがモチーフ</p>
 <p>カモンちゃん 滋賀大 井伊直弼の官位「掃部頭(かもんのかみ)」から命名</p>	 <p>めいじろう 明治大 「めいじ」と、森の賢者フクロウの「ろう」を合体</p>
 <p>イーゴ 青山学院大 聖書に登場する動物の中から「ワシ(イーグル)」をモチーフに選んだ</p>	 <p>しずっぴー 静岡大 富士山を抱く学びの拠点をイメージ</p>

「ユニコン君」は慶応大応援指導部提供、その他は各大提供 The Asahi Shimbun

シンボルそのもの
大学経営に詳しい諸星裕・元ミネソタ州立大秋田校学長 米国の大学では古くから、各州の動物や鳥をマ

スコットにして学生スポーツの応援に熱狂してきまし。マススコットは街のシンボルそのもの。移民の国なので、地域の一体感を高める象徴として愛されてきた

のでしょう。
日本でも、学生たちが誇りを持ってマススコットのTシャツを着られるような時代になるといいですね。

やCMにも登場する活躍で、大学は、志願者増に役買っている。と見ている。広報室の黒木幸代さんは「従来の国立大は受験生を待っていたら良かったが、今はこちらから出て行ってアピールが必要な時代になった」。

980年代には姿を消す。いま、応援席にぎわすのは、早大の「ワセタペアー」と慶大の「ユニコン君」だ。一方、慶大のユニコン君、応援指導部4年の佐野心一さんは「戦災で焼失した三田の大講堂の玄関バルコニーに、ユニコンの石像があったのがきっかけ。

の売店では、ぬいぐるみや携帯ストラップなど約150種類のグッズが売られ、受験生にも人気だという。一方、慶大のユニコン君、応援指導部4年の佐野心一さんは「戦災で焼失した三田の大講堂の玄関バルコニーに、ユニコンの石像があったのがきっかけ。

先駆けになったのが青山学院大だ。99年に大学開設50周年を記念して「イーゴ」を発表した。ややくわもての顔立ちながら、ユーモラスな動きで親しまれている。明治大は、2007年に誕生した「めいじろう」を広報活動に積極的に活用。全国の大学の刺激になったと言われる。

悪役のイメージさえある郷土出身の人物をあえてモチーフにしたのは、滋賀大の「カモンちゃん」。谷口伸一教授(情報管理学)が、暮末の長老として「安政の大獄」を実行した井伊直弼の幼少期をイメージし、自らのゼミで着ぐるみを製作した。「校門門外の変で暗殺された井伊公だが、実は開国に向けて広い視野を持っていた。イメージを変えられたら」と思いがこめる。

大学ゆるキャラの数々

各地の国立大も負けていない。国立大は04年に一斉に法人化され、安定経営のために、特色作りや発信力が求められるようになった。旧帝大より、地方の大学の方が切実だ。

山口大は今年22日、キャラクター「ヤマミイ」の着ぐるみをお披露目した。学内の人気投票で選んだ担当者には、「3キャンパスに分かれていた学生や教員の心を一つにできた」と期待を寄せる。

佐賀大の「カッチーくん」は、県鳥のカササギがモチーフ。大学職員の着書から生まれた。県内外の高校に配る広報誌でのアンケートで、グッズプレゼントを企画すると、通常の5倍の反響があったという。

谷口教授は、ゆるキャラについて「実生活に飛び出してきて、触ったり、記念撮影したりも出来る。誕生の背景や物語など、大学を紹介する糸口になれば、学外での会話も弾むはず」と期待している。(志賀英樹)

(志賀英樹)